

# 蚕を育てよう！アオムシを育てよう！

なかの保育園（島根県出雲市）

[4歳児]

4月当初から熱心に虫探しをし、虫かごに入れて興味深く観る姿が見られた。そこへ地域の方から蚕をいただき飼育を始めた。同じ時期にアオムシの幼虫を飼うことになった。保育者はこの二つの生き物の飼育を通して、子どもの「やってみたい」「やってみよう」という気持ちや育てていく上で素朴な疑問や好奇心を受け止め、より興味や関心をもってかかわれるよう支援した。

## <事例> 育ちの違いを発見

### 蚕を育てる

#### 蚕を飼う

蚕を分けて頂いた地域の方に飼育の仕方について話を聞く。そして近くで見せてもらう。「ちっちゃい」「かわいい」「今までダンゴムシしかみたことない。毛虫は見たことあるけど」などと言う。保育者が「Sさんが大切にしている蚕だからみんなも大事に一生懸命お世話をしようね」と話すと、「うん。大切にします。大人のお兄さん指くらいに大きくなるって言われたよ。早く大きくなってほしいな。だから僕ががんばってお世話するよ」と言う。

#### 世話をする

朝登園してきて真っ先に蚕の様子を見ている子どもたちが、「先生、蚕にエサあげたい」「蚕がお腹減ったよーって言ってるよ」「早く桑の葉が食べたいって言ってるよ」などと言う。保育者が「本当だね。みんなが来て葉っぱをくれるのを待っていたのかもしれないね」と言うと、「葉っぱをやる前にウンチをとるんだよ」「この箱に蚕を移しておこう」などと世話の仕方を言葉に出して行く。日が経つにつれ、子どもたちの手際は良くなりスムーズに蚕の部屋はきれいになっていった。

「あっ葉っぱ食べた」「むしゃむしゃ音が聞こえるね」「おいしいおいしいって言ってるんじゃない？」などと感じたことを言う姿がある。

#### 気付く・疑問をもつ・考える

蚕にエサをあげよう：「桑の葉しかたべないね」

お部屋をきれいにしておけよう：「古くなった葉っぱは捨てて新しいやわらかい葉っぱをあげよう」「ウンチをとってあげよう」

餌を食べて大きくなる：「みんなでいっぱい葉っぱあげてるもん」「朝葉っぱあげたばっかりなのにもうこんなに少なくなってるもん」

脱皮をする：「何だろう？」「蚕でもないし...」「葉っぱでもないし...」「分かった。蚕が脱皮したんじゃない？」「だってザリガニも脱皮するよ。前に本で見たことがあるよ。脱皮して皮を脱いでたよ」「そうそう。体が大きくなる時に小さい皮を脱ぐんだよ」

蚕のウンチはかたい：「においしない」「くさくない」「かたいよ」「この中に水を入れたらどうなるかなー？」「ウンチは黒かったのに水入れたら色が緑色になったよ」「あっお茶の匂いがする」「何でかな？」「わかった！桑の葉を食べとったけんウンチも緑の葉っぱじゃない？」



#### サナギってどんな形？

マンションを作ろう：蚕が繭を作るために一匹ずつのお部屋を作る。

繭を作る：「蚕が糸を出してる」「何か蚕の糸

ってくもの巣みたい」「繭って丸い形してるね」「長丸になってるね」  
サナギになる(繭の中のサナギを見る)：「これ蚕じゃないね」「えー、蚕だよ」「だって形が違うよ」「ほら、やっぱり蚕のサナギだけけん蚕だよ」「同じ蚕なのに形が変わるって不思議だね」

#### 蛾になった

(登園後すぐ)成虫になり出てきた「蚕蛾」を発見する：「蚕が蛾になった」「いつの間に？」「何かブーンって音が聞こえる」「この蛾飛ぶかなあ？」「全然箱の上に行かんね。何でだろう？」「蚕も葉っぱが置いてある下の方におったよ。だからじゃない？」交尾をし始めると「蚕と蚕がくっついてる」と言いよく観ていた。

#### 卵が生まれた

蚕の卵なんだ：「この黄色いのって何だろう？」「いっぱいあるよ」「あっこの蚕お尻のところに黄色いのがくっついてる」「もしかして卵じゃないかと思う」「楽しみ。どんな赤ちゃんかな？」「蚕の赤ちゃん早く見たい」「またみんなで飼いたい」「また世話ができる」

#### 蚕が死んじゃった

### アオムシを育てる

#### アオムシを飼う

保育者はアゲハチョウの幼虫(アオムシ)を飼育することにした。「これ、何の幼虫？」「分からん。でも蚕と形は似てるけど色が違う...」一冊の絵本を持って帰ってきて、「先生、見て！これと一緒にだよ」「あおむしくんって書いてあるよ」と話す。保育者が「本当だね。あおむしくんって大きくなったら何になるんだろう？」と言うと、「チョウチョ！」「アゲハチョウだよ」などと自分たちは知っていることを言い合う。(この日から蚕とアオムシの二種類の幼虫を飼う。)

#### 世話をする

「アオムシの葉っぱは濡れとってもいいの？蚕に葉っぱをあげる時は水を拭いてからあげてるよ」「ウンチはどっちも同じだ」など、二種類を同時に飼うことで、世話の仕方の違いや共通していることに気付く。

#### 気付く・疑問をもつ・考える

アオムシにエサをあげよう

「みかんの葉っぱをたべるよ」

お部屋をきれいにしよう

「みかんの葉っぱが枯れないように水に挿しておこう」「ウンチをとろう」

アオムシを触っていると黄色いツノを出す

「このツノみたいなのは何？」「わっ臭い！！でも、みかんの匂いがする」「みかんの葉っぱを食べてるから？でも何でこんなツノを出す？」「このツノは怒った時に出すんだ」「嫌だと思った時にツノを出すんだよ」この絵本を通して『アオムシは脱皮した皮をムシャムシャと食べる』と知る。「蚕は脱皮した皮は食べらんよ」と新たな違いに気付く。

#### アオムシがサナギになった

アオムシがサナギになった：何度か脱皮を繰り返してサナギになることを発見する。「アオムシがとんがり帽子になってる」「本当だ。これサナギだよ」「蚕はまだサナギになってないのに、アオムシはもうサナギになったね」「このサナギ、糸でくっついてるよ」「蚕と同じ糸だ！」

#### チョウチョが出てきた

サナギの色が緑色から黒色に変化する：

「サナギの色が黒になっとる」「何でだろうか？」「こうなるところじゃないの？」と言って図鑑を持ってきてサナギからでてくるところを指さす。

チョウチョが出てきた(翌日)：「あっチョウチョだ！」「やあーきれいー！」「でもどうして飛ばないの？」「あっ飛んだ！」「休憩してたんじゃない？」「うーん、飼いたい。でもかわいいそうな気がする」「だってチョウチョは花の蜜を吸うんだよ。でもここには花がないけん、お腹が減るよ」「お外

蚕が死んでる：「蚕動かんよ」「死んでるんじゃない?」「かわいそう」  
「埋めてあげよう。」

#### 赤ちゃん蚕の誕生!

卵の色が変わり遂に赤ちゃんが生まれる：「すごーい!!」「赤ちゃんだ!」「かわいい!」子どもたちは蚕の誕生を喜び、感動していた。赤ちゃん蚕のために食べやすいよう、桑の葉を小さく刻み与えた。

を飛ばしたいよーって言ってる」

子どもたちと一緒に考え、チョウチヨは逃がすことにした。園庭で飼育ケースからチョウチヨを出しチョウチヨがヒラヒラと飛び始めると、チョウチヨにそれぞれが言葉をかけて見送っていた。

<考察> 蚕、アオムシの飼育を通して子どもたちは生き物の世話をする大切さ、生命の大切さを感じた。そして世話をすることで、子どもたちは生き物に対する温かさや優しさが伝わるようなかわりをするようになった。また、同時に二種類の生き物を飼育することで、普段見落としがちなもの「なんで?」「どうして?」という科学する心を改めて感じ追求することができた。子どもたちは、色や形、成長過程が違うことに気付きながらたくさんの不思議を感じ、命はつながっているということなどの共通した部分を知ることができた。この飼育で得た生命の大切さ、思いやりを日々の生活の中でも感じられるように支援を続けていきたいと思う。



#### みどころ

保育者は「蚕の飼育」に加え、「アオムシの飼育」もするという環境を有効に活かし、子どもたちの素朴な疑問や好奇心を受け止めながら、一緒に飼育活動を進めています。この環境は、喜んで世話をしたり成長の様子を比べたりすることができるようになっていく、4歳児の興味や発達に即しています。このように、目的や見通しをもって飼育活動ができる5歳児や、目の前の変化に興味を示す3歳児とは違い、子どもたちの実態に応じた環境になっていることで、自分たちで不思議さや疑問を感じて考えたり飼育を進めようとしたりする、意欲的なかわりが引き出されています。